

昔のひとのくらしのあとをさぐる（校区の主な遺跡）

■顔戸遺跡群（縄文～平安時代／顔戸・高溝）

縄文時代の遺物が多く出土し、次いで、弥生時代後期から古墳時代中期にかけて大規模な集落が営まれました。高溝遺跡では倉庫跡などがみつかり、さらに、集落を囲む環濠（堀）が高溝遺跡や顔戸遺跡で出土しています。平安時代には、平野部を統一した方位で、一辯108mの水田に区画する条里が普及します。



狐塚5号墳出土埴輪

■狐塚5号墳（古墳時代／高溝）

5基の古墳群が水田の下でみつかりました。5号墳はもっとも古く、西側に張り出した造り出しをもつ全長30mの帆立貝の形をした古墳です。古墳をめぐる周溝から鳥の形をした木製品が出土し、造り出しからは家形埴輪・盾形埴輪・韌形埴輪・太刀形埴輪・蓋形埴輪・人物埴輪・鶴形埴輪などが出土しました。



法勝寺廃寺跡

■法勝寺廃寺（白鳳～平安時代／高溝）

息長氏の氏寺とされるのが法勝寺跡です。範囲は二町（220m）四方と想定されています。屋根にふかれた軒丸瓦は4種類あり、白鳳時代から平安時代まで続いたことがわかりました。天野川流域では、三大寺跡（枝折）や正恩寺跡（飯）、磯廢寺（磯）などが建立されますが、奈良時代初頭に廃絶しています。



正恩寺廃寺跡

■正恩寺遺跡（白鳳時代／飯）

天野川の河口部北岸にあり、集落西の八幡神社を中心に堂の西、堂の前、堂の東、北寺内、南寺内、地蔵など寺院に関連する地名が集中しています。出土した瓦は「山田寺式」で、法勝寺跡や三大寺跡（枝折）などでも出土していて、天野川流域の寺院群が密接な関係であったことがうかがわれます。



若宮氏館跡

■平地居館跡（飯・長沢・宇賀野）

米原市近江地域には、戦国武将山内一豊の妻の出身である若宮氏館跡が飯集落のなかに構えられていました。このほか、長沢城跡・宇賀野館跡・嶋氏館跡（飯）・箕浦城跡・西円寺館跡など、集落のなかに地元の武士が住んだ方型の館跡があるのが特徴です。



若宮氏館跡

■古代豪族・息長氏

息長氏は、近江国坂田郡南部（現在の米原市）の近江地域を中心とする天野川流域に本拠地を置いていた豪族です。仲哀天皇の妃・神功皇后や敏達天皇の妃・息長姫を出し、26代継体天皇が即位するときに支援をするなど、古代天皇家を支えた名族です。継体天皇即位のときには、その地の利を生かして、湖西高島や北陸越前、美濃や尾張の豪族を結ぶ役割を果たしました。



息長氏記念碑

■日撫神社角力踊り（顔戸）

相撲は収穫を祈願する神事ですが、近江地域では、ひそかにこの地を訪れた後鳥羽上皇の前で披露したのが始まりとされています。



日撫神社角力踊り

【資料館を利用しよう!】

近江はにわ館・図書館

(米原市顔戸281-1)

開館時間：10:00～18:00

休館日：毎週月曜日、毎月第4木曜日、図書整理期間

入場料：無料



学校のまわりの宝物⑧

坂田小学校区

親子探訪ノスメ

【校 区】

舟崎、高溝、顔戸、長沢、宇賀野、飯、世継、ニュータウン重町、近江グリーンタウン、サンライズ近江、母の郷ニュータウン、レイクサイド宇賀野、高溝東、サンヴィレッジ高溝、リーディング坂田

平成29年度埋蔵文化財公開活用事業

校区のようす

校区は米原市の西部にあたり、琵琶湖に面していて、山地や丘陵がほとんどなく、豊かな田園地帯が広がっています。地形は横山丘陵の西縁部と、校区の南端を流れる天野川の堆積作用による三角州および氾濫原からなっています。また、宇賀野・顔戸・長沢などの集落は、天野川の流れに沿って形作られた微高地である自然堤防上に営まれ、世継の集落は、波に運ばれてきて堆積したもので形成された、湖とほぼ並行する浜堤(丘)上にあります。古代には阿那郷または息長荘がおかれ、息長氏の拠点であり、多くの遺跡があります。中世には朝妻荘となり、東國の人や物資が、天野川の河口の朝妻湊から都へ運ばれ、北陸への北国街道が、中世は顔戸・高溝を通過し、近世には宇賀野や長沢を通っています。

校区のあゆみ

弥生時代後期から古墳時代にかけて顔戸遺跡群や高溝遺跡・法勝寺遺跡(高溝)や黒田遺跡(顔戸・箕浦)などで、集落を囲む大規模な溝や水辺での祭りの場、首長墓を伴う集落遺跡が発掘されています。狐塚5号墳は、平野部に埋没していた6世紀初頭の帆立貝形古墳で、さまざまな埴輪が出土しました。白鳳時代、仏教が国の教えとなると、天野川流域に古代寺院が建立されます。中世には岩脇氏・若宮氏・田那部氏・長沢氏・慶増氏・遠藤氏・嶋氏などの各集落の武士団の居館が築かれます。戦国武将山内一豊の妻は若宮氏の出身と伝えられています。



法秀院の墓



後鳥羽上皇供養塔

七夕石



公家奴振り



蹴り奴振り



坂田小学校区アラカルト

【ふるさとの先人】法秀院の墓（江戸時代／宇賀野）

戦国大名・山内一豊の母法秀院は、4人の子どもを連れて宇賀野の長野家に身を寄せました。近所の子どもに裁縫や行儀見習いを教え、そのなかに、のちに一豊の妻となる若宮喜助友興(飯)の娘・千代がいました。江戸時代に山内家は土佐20万石(高知県)の大名となります。墓所に嘉永7年(1854)の台座があります。

【言い伝え】後鳥羽上皇伝説（顔戸・高溝・長沢）

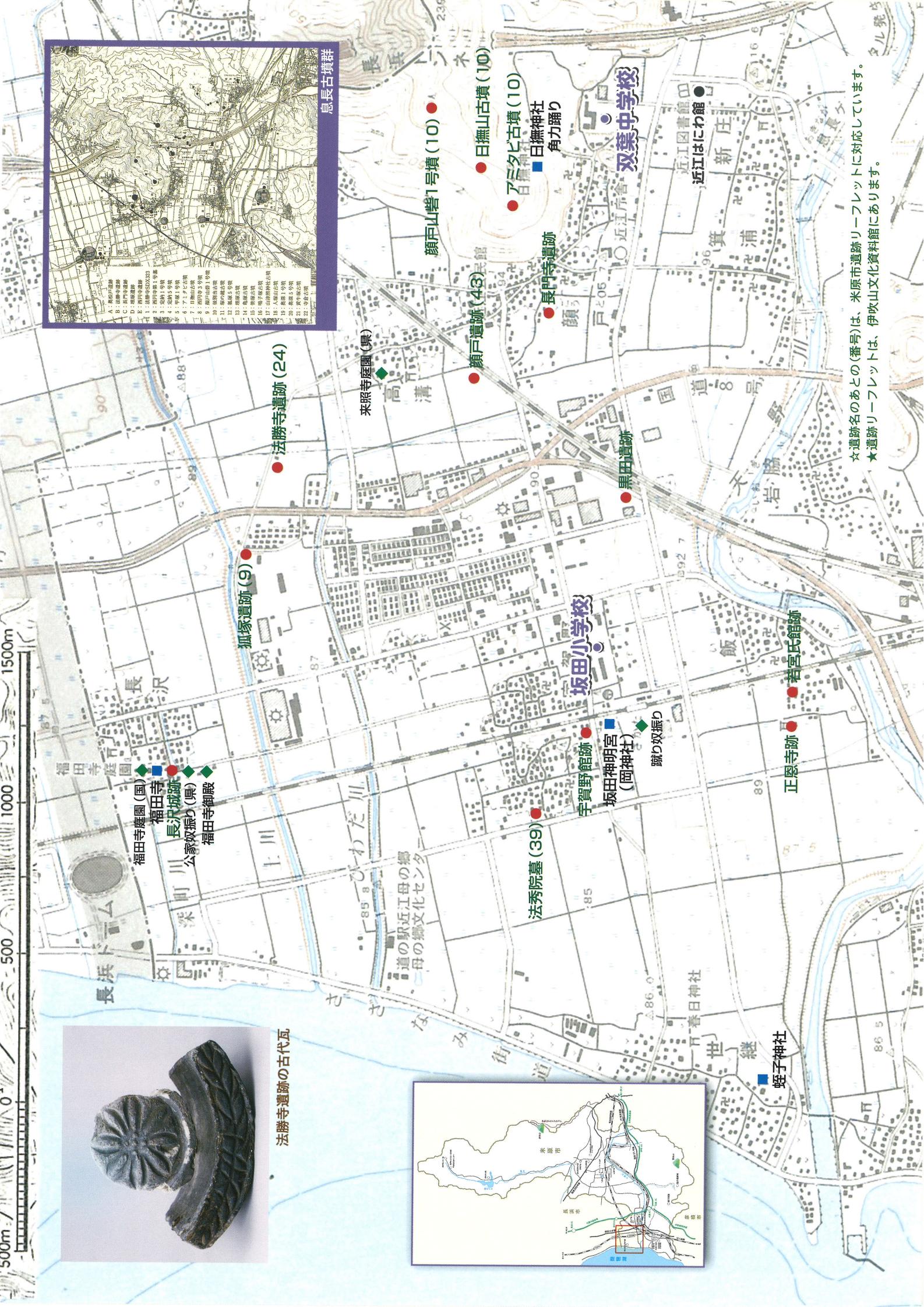
鎌倉幕府初期、後鳥羽上皇は、建久10年(1220)と承久2年(1221)の二度、ひそかに名超寺(長浜市)を訪ね幕府を倒す祈祷を命じました。このとき、日撫神社(顔戸)と山津照神社(能登瀬)に参拝して角力を見学されたと伝えられています。高溝の人塚山には「腰掛石」が、福田寺境内(長沢)には「供養塔」があります。

【言い伝え】七夕伝説（世継）

天野川河口には七夕伝説が伝えられています。蛭子神社には七夕石があり仁賢天皇の第二皇女朝嬬皇女の墓とされています。男性がお参りすると恋愛が成就することです。天野川を挟んで鎮座する朝妻神社の塔は「星川塔」とよばれ、蛭子神社縁起書には雄略天皇の第四皇子星川皇子の墓とされます。

【まつり】奴振り（長沢（県無形民俗）／宇賀野）

近江地域では三つの奴振りが社寺に奉納されています。公家の姫君のお輿入れ行列を伝えるのが福田寺(長沢)の公家奴振です。掛け声とともに、足裏を見せずに優雅に練り歩きます。宇賀野の奴振りは、前傾姿勢で、足を尻に届くくらい蹴り上げる動作から蹴り奴と呼ばれます。彦根藩の殿様の行列を再現したものです。能登瀬には武家奴が伝わります。



法勝寺遺跡の古代瓦



☆遺跡名のあと(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡名のあと(番号)は、伊吹山文化資料館にあります。